

科目区分	専門分野	履修学年	2年後期	単位数	1	時間数	30
科目名	小児看護方法Ⅰ－Ⅱ			担当教員	専任教員		
使用テキスト	1) メディカ出版 小児看護学①小児の発達と看護 2) メディカ出版 小児看護学②小児看護技術 3) メディカ出版 小児看護学③小児の疾患と看護						
テキスト以外の教材・参考書等	1) 医学書院 系統看護学講座 小児看護学① 小児臨床看護各論 2) 医学書院 系統看護学講座 小児看護学② 小児臨床看護各論						
授業の概要及び到達目標							
<p><u>授業の概要</u></p> <p>小児看護の対象は小児とその家族（養育者）であることを踏まえ、健康障害を持つ小児に対してだけでなく家族（養育者）に対する援助も考えられるようにする。小児は発達の特徴からも様々な症状を示す。様々な健康状態に応じた子どもと家族（養育者）に必要な看護を理解することを目的とし、既習学習の小児看護概論、小児看護方法Ⅰ－Ⅰも踏まえながら小児に必要な看護について理解できるようにする。児童虐待や災害時など特別な支援が必要な小児も多い。そのような場面における小児看護の特徴についても理解できるようにする。講義の復習を兼ね、国家試験の過去問を解くことで、国家試験で多く出題されているポイントや理解度の確認にもつなげる。</p> <p><u>到達目標</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康障害がある子どもと家族に起こりやすい状況を理解できる。 2. 様々な健康状態にある子どもと家族に対する看護について理解できる。 3. 特別な支援を必要とする子どもと家族への看護について理解できる。 							
評価方法	筆記試験						
備考	関連科目：人体の構造と機能, 疾病の成り立ちと促進						

回数	授業計画 学習内容	備考
1	疾病・障害を持つ小児と家族への看護 入院・外来、在宅の小児と家族への看護 子どもの病気が小児家族に及ぼす影響	
2	経過別看護（慢性期、急性期、周手術期、終末期）	
3	1）経過に応じた小児と家族への看護	
4	症状を示す小児の看護（不機嫌・啼泣、呼吸困難、ショック、痙攣、 発熱、嘔吐・下痢・便秘、脱水、発疹）	
5		
6		
7	健康障害に対する看護（糖尿病、気管支喘息、肺炎、心疾患、川崎 病、白血病、糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、アレルギー、痙攣性 疾患）	
8		
9		
10		
11	子どもの事故、安全対策（不慮の事故、誤飲・誤嚥、溺水、熱傷） 病院での安全対策	
12		
13	子どもの虐待と看護	
14	災害時の子どもへの看護	
15	終講試験 まとめ解説	